

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 26 年 6 月 5 日現在

機関番号：17201

研究種目：若手研究(B)

研究期間：2011～2013

課題番号：23792710

研究課題名(和文) 地域で暮らす精神障害者におけるリカバリーの関連要因について

研究課題名(英文) Factors Influencing the Recovery of person with mental disorder Living in the Community

研究代表者

藤本 裕二 (FUJIMOTO, YUJI)

佐賀大学・医学部・助教

研究者番号：30535753

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 1,300,000円、(間接経費) 390,000円

研究成果の概要(和文)：本研究の目的は、地域で暮らす精神障害者のリカバリーに影響する要因を明らかにすることである。地域で暮らす精神障害者361名を対象にアンケート調査を実施した。調査項目のリカバリーは24項目版 Recovery Assessment Scale 日本語版を用いた。その影響要因を個人属性、自覚する病気の状況、活動に関する要因、心理・社会的要因で構成した。

重回帰分析の結果、楽観主義、情緒的支援ネットワーク認知、趣味や楽しみの3項目がリカバリーに影響力を持つ変数として採択された。リカバリーは、疾病の治癒ではなく人生の回復であり、リカバリー促進には、活動面や心理社会的側面を重視することが重要である。

研究成果の概要(英文)：The purpose of this study is to identify factors which influence the recovery of person with mental disorder who are living in the community. A survey which targeted 361 person with mental disorder living in the community was carried out for this study. Items used as survey items of recovery were 24 items taken from the Japanese edition of the Recovery Assessment Scale (RAS). Factors which were considered to influence recovery included personal characteristics of the patient, symptoms of the illness, factors related to activities, and psychological and social factors.

As a result, there were three items, namely "optimism," "recognition of emotional support network," and "hobbies and enjoyment" which could be selected as variables by the multiple regression analysis. Recovery is not the "healing from an illness," but "the regaining of a person's life." Therefore, it is important to emphasize activities and psychosocial aspects which promote such a recovery.

研究分野：医歯薬学

科研費の分科・細目：看護学 地域・老年看護学

キーワード：リカバリー 精神障害者 地域生活

1. 研究開始当初の背景

精神保健福祉施策において、「入院医療中心から地域生活中心」への移行に伴い、精神障害者自身の能力を活かした主体的で自分らしい生活スタイルを築くことが重要視され、「リカバリー」という考え方¹⁾が注目されはじめた。

“リカバリー”は「精神病が完全に治癒する」ということより、むしろ障害を抱えながらも希望や満足に満ちた人生を送るための新しい目的と意味を創り出すプロセス²⁾とされている。リカバリーは、1980年代からアメリカ合衆国を中心に普及し⁴⁾、精神障害者の地域生活支援の重要な概念として位置づけられている。

精神障害者のリカバリーに関する研究は、欧米で着手されたものが多く、精神障害者のソーシャルサポートとその種類、年齢、症状や生活環境、楽観性等の生活原理に影響されやすいことを示唆している³⁾⁴⁾⁵⁾。日本のリカバリーに関する研究では、質的に研究されたものが多く⁶⁾⁷⁾、リカバリーを量的に測定し、リカバリーに影響を及ぼす要因等については明らかにされていない。

日本でリカバリー概念は緒に就いたばかりであり、地域で暮らす精神障害者のリカバリーに影響する要因を検討することは、リカバリーレベルを高めるための効果的な支援や精神障害者の行動変容へ向けた支援に寄与できると考える。

2. 研究の目的

地域で暮らす精神障害者のリカバリーに影響する要因を明らかにし、リカバリーの促進要因や看護介入の方向性について検討する。

3. 研究の方法

1) 対象及び調査方法

九州北部 4 県(福岡県・佐賀県・長崎県・熊本県)で研究協力に同意が得られたダイケ

ア、就労継続支援事業所等を対象施設とした。対象者は、調査期間内に施設を利用した者で、精神疾患の診断を受けている 20 歳以上で精神発達遅滞と認知症でない者を対象とし、同意が得られた 361 名に調査用紙を配布した。調査時は必ず研究者が同席し、記入終了後に研究者が質問紙を回収した。希望者には、誘導的な質問をしないように留意しながら研究者が回答を対面で聞き取り質問紙へ記入した。調査期間は 2011 年 4 月から 2012 年 9 月であった。

2) 調査項目

(1) リカバリーについて

24 項目 RAS 日本語版⁸⁾を用いて、対象者のリカバリーレベルを測定した。本尺度は 5 つの下位尺度(個人的な自信・希望、手助けを求めるのをいとわないこと、目標・成功志向、他者への信頼、症状に支配されないこと)、24 項目で構成され、5 件法で回答を求めた。合計得点が高い程、リカバリーレベルが高いことを示す。

(2) 個人属性に関する要因

年齢、性別、生活形態とした。

(3) 自覚する病気の状況

発病年齢、自覚する薬の副作用、身体的自覚症状、精神的自覚症状とした。

身体的自覚症状は、簡約版 蓄積疲労徴候スケール(CFSI-18)⁹⁾を用いた。18 項目の質問から構成され、該当する自覚症状が多い程、蓄積疲労徴候が高いことを示す。精神的自覚症状は、簡易で精神症状を評価する Brief Psychiatric Rating Scale(BPRS)¹⁰⁾を参考に 7 項目を質問した。いずれも 2 件法で回答を求めた。該当する自覚症状が多い程、精神的健康度が低いとした。

(4) 活動に関する要因

趣味や楽しみの存在、ピアサポートや講演会活動の経験の有無について調査した。

(5) 心理・社会的要因

情緒的サポート、楽観主義について調査し

た。

情緒的サポートは、情緒的支援ネットワーク認知尺度¹¹⁾を用いた。2件法で回答を求め、合計得点が高い程、情緒的支援者の存在を認知している状態を示す。

楽観主義は、日本版 Life Orientation Test (LOT)¹²⁾を用いた。8項目、4件法で回答を求め、合計得点が高い程、楽観傾向を示す。

3) 倫理的配慮

本研究は佐賀大学医学部倫理委員会及び各調査施設代表者の承認を受け行った。対象者に、研究の目的、意義、方法、研究参加の任意性及び回答をしている途中でも拒否できること、研究への不参加や回答途中で辞退した場合でも、治療や作業所、グループホームの在籍等に何ら影響を及ぼさないことを説明した。調査票は無記名とし、個人は全く特定できないこと、結果の公表、不明な点の問い合わせ等も提示し、同意書に署名した者を研究の対象者とした。

4. 研究成果

1) 対象者の全体的特性について

361名から回答が得られた(回収率 100%)。そのうち、調査票無効者 15名を除く 346名(有効回答率 95.8%)を分析対象とした。男性が216名(62.4%)、平均年齢(SD)は46.6(12.9)歳、家族と同居している者は189名(54.6%)であった。

RASの平均合計得点(SD)は、81.9(13.8)点であった。

平均発病年齢(SD)は26.9(11.7)歳、96名(27.9%)に自覚する薬の副作用があった。身体的自覚症状数の平均(SD)は5.2(4.1)個、精神的自覚症状数の平均(SD)は1.5(1.7)個であった。

291名(89.3%)が趣味や楽しみを有し、ピアサポートや講演会活動の参加経験がある者は37名(10.7%)であった。

情緒的支援ネットワーク認知の平均合計

得点(SD)は、7.2(3.2)点、楽観主義の平均合計得点(SD)は、20.7(3.8)点であった。

2) リカバリーの影響要因の分析

分析モデルの全10項目を説明変数として重回帰分析(Stepwise法)を行った結果、「楽観主義」「情緒的支援ネットワーク認知」「趣味や楽しみ」の3つがリカバリーに有意な影響力を持つ変数として採択され、自由度調整済みR²は0.568であった。

重回帰分析(ステップワイズ法) n=346	
変数	ベータ()
趣味や楽しみ(有)	0.196 **
情緒的支援ネットワーク(高)	0.309 ***
楽観主義(高)	0.475 ***

調整済み R² = 0.568

p<0.01 *p<0.001

リカバリーは「疾病の治癒」ではなく「人生の回復」であり、リカバリー促進の為に、活動面や心理社会的側面を重視することが重要であることが示唆された。

【引用文献】

- 1) 伊藤哲寛：精神障害者の社会的リハビリテーションの目標と課題 - リカバリーとインクルージョン - , 精神科治療学 , 21(1) , 11-18 , 2006.
- 2) Anthony , W.A. : Recovery from Mental Illness: The Guiding Vision of the Mental Health Service System in the 1990s , Reprinted from Psychosocial Rehabilitation journal ,16(3) ,11-23 , 1993.
- 3) Corrigan , P.W. , Phelan , S.M. : Social Support and Recovery in People With Serious Mental Illnesses , Community Mental Health Journal , 40 , 513-523 , 2004.
- 4) Corrigan , P.W. , Giffort , D.Fadwa , R. et al. : Recovery as Psychological Construct , Community Mental Health Journal , 35(3) , 231-239 , 1999.

- 5) Resnick ,S.G. ,Rosenheck ,R.A. ,Lehman , A.F. : An Exploratory Analysis of Correlates of Recovery , PSYCHIATRIC SERVICES , 55(5) , 540-547 , 2004.
- 6) 石川かおり ,野崎章子 ,岩崎弥生 : 地域で生活する精神障害者のリカバリーに関する質的研究 ,こころの健康 ,22(1) , 78 , 2007.
- 7) 岩崎弥生 ,野崎章子 ,松岡純子他 : 地域で生活する精神障害をもつ当事者の視点から見たリカバリー～グループ・インタビュー調査の質的分析をとおして～ , 病院・地域精神医学 , 50(2) , 171-173 , 2008.
- 8) Chiba.R , Miyamoto.Y , Kawakami.N : Reliability and validity of the Japanese version of the Recovery Assessment Scale(RAS) for people with chronic mental illness : Scale development , International Journal of Nursing Studies , 47(3) , 314-322 , 2009.
- 9) 山崎喜比古 : 保健・医療・看護調査ハンドブック - 簡約版蓄積疲労徴候スケール18項目 - ,東京大学出版会 ,111-120 , 1992.
- 10) Kolakowska.T/ 北村俊則 : Brief Psychiatric Scale(BPRS)用語集と評価方法 ,精神衛生研究 , 32 , 6-15 , 1985.
- 11) 宗像恒次 : ストレススケールガイドブック - 情緒的支援ネットワーク認知尺度 - ,実務教育出版 , 404-407 , 2004.
- 12) 戸ヶ崎泰子 ,坂野雄二 : オプティミストは健康か? ,健康心理学研究 ,6(2) ,1-11 , 1993.

5 . 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計 3 件)

- 1) 藤本裕二 , 藤野裕子 , 楠葉洋子 : 地域で暮らす精神障害者のリカバリーレベルと背景項目との関連 ,医学と生物学 ,157 (6) , p941-946 , 2013 . (査読有)
- 2) 藤本裕二 , 藤野裕子 , 楠葉洋子 : 地域で暮らす精神障害者のリカバリーに影響を及ぼす要因 ,日本社会精神医学会 , 22 (1) , p20-31 , 2013.(査読有)
- 3) 伊勢田 千康子 , 相川知代 , 藤本裕二 , 中島富有子 , 山川裕子 : 精神障がい者の地域生活におけるリカバリーの実態 ,日本精神科看護学会誌 , 54(3) , p81-85 , 2011.(査読有)

[学会発表](計 2 件)

- 1) 藤本裕二 , 山川裕子 , 楠葉洋子 : 地域で暮らす精神障害者のリカバリーとその関連要因 , 第 38 回日本看護研究学会学術集会 , 2012.7.8 , 沖縄 .
- 2) 藤本裕二 , 山川裕子 : 地域で暮らす精神障害者の情緒的支援ネットワークの実態 - 個人特性及び生活状況との関係 - , 第 36 回日本精神科看護学会 2011.6.1 , 福岡 .

[図書](計 0 件)

[産業財産権]

出願状況(計 0 件)

取得状況(計 0 件)

[その他]

ホームページ等

6 . 研究組織

(1)研究代表者

藤本 裕二 (FUJIMOTO YUJI)

佐賀大学・医学部・助教

研究者番号 : 30535753